

令和 5 年度第 5 回立川市生涯学習推進審議会 会議録

開催日時 令和 5 年 11 月 29 日（水曜日） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分

開催場所 立川市女性総合センターアイム第 3 学習室

出席者 [委 員] 倉持 伸江 会長 檜崎 茂彌 副会長 大橋 正則 委員
柴 香里 委員 梅田 茂之 委員 竹内 英子 委員
難波 敦子 委員 宮本 直樹 委員 来住野 清子 委員
岩元 喜代子 委員 杉浦 早苗 委員

[事務局] 立川市生涯学習推進センター長 庄司 康洋

同 管理係長 加藤 暁子

同 管理係員 大須賀 雄大（記）

傍聴 0 名

次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告事項
 - (1) たちかわ市民交流大学企画運営委員会の会議録について
4. 協議事項
 - (1) 令和 5 年度第 4 回立川市生涯学習推進審議会 会議録について
 - (2) 立川市第 6 次生涯学習推進計画 令和 4 年度取状況の進捗評価表について
 - (3) 立川市第 7 次生涯学習推進計画に向けた自由討論
5. その他
 - (1) 令和 5 年（2023 年）第 3 回立川市議会定例会報告
 - (2) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会関連の各大会の情報共有について

配付資料

1. 令和 5 年度第 2 回たちかわ市民交流大学企画運営委員会議事概要
2. 令和 5 年度第 4 回立川市生涯学習推進審議会 会議録（案）
3. 立川市第 6 次生涯学習推進計画 令和 4 年度取組状況の進捗評価表（令和 5 年度実施）
4. 第 4 回立川市生涯学習推進審議会 フリートーク内容一覧
5. 令和 5 年（2023 年）第 3 回立川市議会定例会報告

会議内容

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告事項
 - (1) たちかわ市民交流大学企画運営委員会の会議録について
（会 長）A 委員よりご報告をお願いいたします。
（A 委員）資料 1 をご覧ください。9 月 19 日に市民交流大学企画運営委員会を開催いたし

ました。この日は第9期の最初の会議となります。第9期の委員さんの男女比率ですが、男性6、女性5とほぼ半々となっております。第9期の委員長、副委員長を選出いたしました。第8期と同じく引き続き私が委員長を務めさせていただきこととなりました。まず各委員からの報告ということで、情報交換を丁寧に行っております。3ページ後段で事務局からの報告ということで、地運協の状況などを報告いただいております。4ページは、生涯学習推進審議会の議事内容について報告をいただきまして共有をしているところがございます。5ページにいきますと後段でいかに立川の女性が活躍しているかというお話が出てまいりまして、6ページまで続いております。6ページの後段では市民交流大学の事業の進捗について報告をいただきましてその内容を確認しております。7ページはいよいよ次期の生涯学習推進計画の策定に入りますので、市民交流大学企画運営委員会としてもこの生涯学習推進審議会の進捗状況としっかりと連動しまして意見等を申し上げていく体制を整えていこうというところがございます。なので、今回は12月に開催するのですが、年が明けてからどう開催しようかと迷っております。そういう意味ではこの生涯審が予定されている1月と3月で計画作りにどのようなメニューでいくのかを今日もし分かれば教えていただきたいと思っております。長くなりましたが市民交流大学企画運営委員会の報告は以上となります。

(会長) ありがとうございます。では委員の皆様から何かご質問はございますか。(なし) よろしいでしょうか。今、A委員からもありましたが、今後の市民交流大学企画運営委員会と本会議でもこの先の生涯学習推進計画策定の意見交換を始めていくところですが、本会議の今後の予定について事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局・管理係員) 1月からスタートとなりまして、市長からの諮問をご提出させていただきます。その日は細かい議論に入るというよりは、どういった方向性の計画になるとか、例えば体系について話し合ってくださいとか今後どのような進め方をするかというお話をさせていただきことにとどまるのではと思っております。その次のところで実際にお話し合いになるのですが、そこに関してはまだ詰め切れていない部分がございますので、おそらく案をご提出させていただいてそれについてご議論いただくようになるかと思っております。

(会長) 1月からは次期の生涯学習推進計画の議論が始まるとのことでしたので、また、市民交流大学企画運営委員会のほうと情報交換しながら検討していけたらと思います。ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。それでは協議事項に入りたいと思います。

4. 協議事項

(1) 令和5年度第4回立川市生涯学習推進審議会 会議録について

(会長) 事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局・管理係員) 事前に確認をご依頼しておりましたが、修正意見はありませんでした。本日の会議をもってご意見等なければご承認いただけたということで市ホームページに公開したいと思います。よろしく申し上げます。

(会 長) ありがとうございます。何か修正、確認したい点等ございますか。(なし) もし、ありましたら本日の会議終了までにお声がけいただけたらと思います。

(2) 立川市第 6 次生涯学習推進計画 令和 4 年度取状況の進捗評価表について

(会長) 事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局・管理係員) 資料 3 です。本日の議論をもって完成としたいと思います。ご協力よろしくをお願いいたします。本日は大きく分けてふたつほど説明がございます。まず、前回の会議で原案を出させていただいてその場でご意見をいただいたのと、宿題という形でご意見をいただきました。それに基づいて第 2 回目の部会を開いて意見を調整して、皆様にメールで資料を送らせていただいたかと思えます。その後、修正した部分について特段ご意見はなかったのですが、別の部分で事務局案を含めて 2 点ほど、修正を諮っていただきたい箇所がありますのでお伝えいたします。1 点目が 3 ページ I-1-②です。「すべての人が学べる機会の提供」で「3. 生涯学習推進審議会によるコメント」の下から 3 行目のところで「障害のある方について専門的な知識を有する職員がいないことは課題で」とありますが元々は「問題」となっておりました。このような評価で「問題」という文言はあまり使われていないことと、トーンダウンさせる意味を含め、「課題」という表現が適切だろうと「問題」から「課題」に事務局で代えさせていただきました。こちらについて何かご意見等ありましたら後ほどお願いいたします。もう 1 点が 14 ページ III-2-①「コーディネーターとしての職員の養成、研修体制の強化」の下から 7 行目にある『また、実質的にコーディネーター役や講座の企画を担っている会計年度任用職員が将来を見通して継続的に働くことが出来る環境を整えることも求めます。』という文章を入れさせていただきました。こちらの文章については 1 回目の部会ときに会計年度任用職員の雇用面、制度の記載でしたのでテーマとずれているということでしたのでいったん削除していたのですが、今回、載せていただきたいということで記載しました。この部分について、載せるかどうか、また内容についてこれでよろしいかどうか、この場でご議論いただければと思います。こちらが修正のあった意見の部分でして、もう 1 点ご確認いただきたいのが評価欄についてです。事前に皆様にお渡しした資料にも評価を入れていたのですが、メールで触れていませんでしたのでお目通しいただいてないかもしれませんが、こちらに関しては事務局の取り組んだ事項と皆様のコメントを加味して事務局の評価ということで入力しているものがございます。ほとんどのものが昨年と同じ評価にしているのですが 3 項目ほど評価を変更していますのでご確認いただければと思います。1 点目が 7 ページ I-3-②「各種団体・組織などと連携した学習機会の創出」の評価です。こちら C 評価で特段大きく変化があったわけではないのですが学芸大学との連携状況を中心に、またその他の団体、組織とも連携が取れている部分もありまして、当然今後も連携先を増やしていく努力が必要なのは承知しているところですが、C の域は脱して B の域にいるのではないかと B 評価を入れさせていただきました。2 点目は 9 ページ II-1-②「学びの裾野を広げる情報発信」、こちらは令和 4 年度から YouTube や当時の Twitter、今でいう X (エックス) の活

用を開始したということで、少し前進が見られたので C から B へ上げさせていただきました。最後の部分ですが、15 ページⅢ-3-①「学習施設の充実と利便性の確保」についてです。こちらに関しましては学習館の Wi-Fi が一般向けに利用開始になりまして、使い方の課題は残っておりますが利用開始することができ一歩前進ということで C から B に上げさせていただきました。説明は以上となりますので、修正点と事務局の評価の部分をご議論いただければと思います。

(会 長) ありがとうございます。今日で進捗評価表を確定していきたいと思っておりますので、修正いただいたところはもちろんです、評価表の最初のところから確認しながら進めていきたいと思っております。事務局の修正点については該当のところに来たら議論していきたいと思っております。では 2 ページ「I-1-①市民ニーズにこたえる事業の推進」から始めていきます。こちらの事務局の評価は B です。(総評読み上げ) 修正、変更ありますか。(なし) 大丈夫そうですね。次は「I-1-②すべての人が学べる機会の提供」です。評価は同じく B です。(総評読み上げ) ここは、「障害のある方について専門的な知識を有する職員がいないことは課題で」と「問題」から「課題」へ変更した部分ですね。

(副会長) 4 行目の最初なのですが、「問題が先鋭化」というのは正しくなくて、「深刻化」としないと「先鋭化」というのはおかしいのではないかと思います。

(会 長) ありがとうございます。今、「先鋭化」より「深刻化」のほうがよろしいのではという意見をいただきましたけどいかがでしょうか。「深刻化」という言葉もあるかどうかもありますね。

(副会長) 「深刻になっている」とかでもいいかもしれませんね。

(事務局・センター長) 不登校の現状というところでは確かに東京都は高いです。そういう意味では深刻化していて広がってきている。不登校対策は鋭意やっけていかなくてはならない状況だといえます。

(会 長) そうなのですね。では「不登校などの問題が先鋭化する現代にあって」ではなく、「深刻になる現代にあって」に変更で。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(B 委員) 5 行目「障害のある方について専門的な知識を有する職員がいないことは課題で」は「いない」と言い切ってしまうと良いのですか。「少ない」ではなくて。

(副会長) 「職員が不在」と上に書いてありますね。

(事務局・センター長) 障害福祉の知識を専門に有している職員は学習館にはいません。生涯学習推進センター全体では、障害とか福祉に携わった職員はいるのですが、担当ではないことや、さらに委託をしているので問題提起ということで課題とさせていただきます。確かにいないことは事実です。

(会 長) そうなのですね。ではこのままで。

(C 委員) 「若者たち向け」と書いたところですが、「若者向け」のほうがいいですね。

(会 長) 4 行目「先鋭化・・・」のあとですね。複数形ではなく、「たち」を削除、「若者向け」ですね。他に何かありませんか。(なし) あと、「問題」は「課題」への変更でよろしいですね。では次、「I-2-①交流の場や機会の提供」、これは B 評価のままです。(総評読み上げ) 何かお気づきの点はありますか。

- (D委員) 上から3行目、「コロナ禍にもかかわらず」だと現在進行形になっているので、「コロナ禍においても」でもいいのではないかと思います。
- (会長) そうですね。よりニュアンスがはっきりしますね。「コロナ禍にもかかわらず」ではなく「コロナ禍においても」で。
- (副会長) 実は会長が下から4行目のところを「個々の取り組んでいることがら」と読み違えたのですが、「個々の取り組んでいること」は「個々に」ではないとおかしいので、会長の読み上げたほうが滑らかな感じがしますね。「個々に取り組んでいること」でもよろしいのですが。
- (会長) 失礼しました。では「個々に取り組んでいること」にしましょう。よろしいですね。では、次、「I-2-②地域課題の共有化と解決に向けた学びの推進」(総評読み上げ)いかがでしょうか。(なし)ではよろしいですね。次、「I-3-①市民とともにつくる学びの場づくり」、評価はBです。(総評読み上げ)いかがでしょうか。
- (副会長) 3行目のところの「学生の登用」という言葉に抵抗があります。偉そうですね、学生が下というふうな。「学生と協働が図れる」など言葉を変えたほうが良いと思います。
- (会長) 「参加」「参画」あたりでしょうか。企画から参加なので、「参画」のほうがよろしいですかね。では、ここは「登用」ではなく、「学生の参画が図れるような」にします。良くなりましたね。他にありますかでしょうか。(なし)ありがとうございました。では次行きます。「I-3-②各種団体・組織などと連携した学習機会の創出」、これはC評価からB評価に上がりました。(総評読み上げ)いかがでしょうか。Bへステップアップしてますけど、特になければ良いということで。次は「II-1-①さまざまな媒体の活用による広報」これは元々A評価ですね。(総評読み上げ)いかがでしょうか。(なし)はい、よろしいですね。次は「II-1-②学びの裾野を広げる情報発信」(総評読み上げ)いかがでしょうか。
- (副会長) 「デジタルサイネージ」というのはどういう意味なのですか。
- (B委員) 電子看板ですかね。
- (会長) 画面が変わるのあるじゃないですか。紙ではない看板。
- (副会長) 「デジタルサイネージ」というのですね。一般的な言葉なのですか。僕が知らなかっただけです。わかりました。
- (会長) 括弧いれますか。電子看板と。でも、出す先はセンターなのでわかりますね。
- (B委員) あと「ご努力」というのは。「ご尽力」ですかね。
- (会長) ここだけ急に「ご」をつけるのも違和感がありますね。努力の成果、ご尽力の成果…取り組みの成果というあたりで、「関係者の取り組みの成果」にしましょうか。(一同同意)はい、ありがとうございます。では他になければBにワンランクアップでよろしいですね。じゃあ次行きます。「II-1-③学習相談体制の充実」、これはCのままです。(総評読み上げ)よろしいですか。はい、では大丈夫そうなので次に行きます。「III-1-①学びにかかわる市民や組織との協働」これはBのままです。(総評読み上げ)はい、何かありますか。下から3行目「どの様な方」は「人」ですかね。「人」のほうがわかりやすいと思います。他はいかがでしょう。
- (副会長) 「市ホームページでは」とありますよね、ここまでが市民リーダーの話ですか？

(会 長) ここまでが市民リーダーの話ですね。次の段落からが学校支援ボランティアの話です。

(副会長) それだと、ひとつ下げないと。ずっと続いているように感じます。下げて次の段落だというふうにした方がいいと思います。

(事務局・管理係員) PDF の話は市民リーダーの話です。文字数的にぴったりなので、改行している感じがしないのですが、一字下げは全部していません。

(会 長) 他の評価表も一字下げしていませんね。他にも段落が変わっても一字下げない方式です。ちょうどここはぴったり終わってしまっているの、切れ目が分かりづらいのですが。

(D委員) そうしたら、下から4行目の最後「市民リーダーを推薦していただけるような仕組みづくりの取り組み」の「の取り組み」を削除して、「市民リーダーを推薦していただけるような仕組みづくりも期待されます」にすると5文字くらいは少なくなります。

(会 長) そうですね。そうするとちょっと改行されている感じにはなるかと。あと「市ホームページ」と「名簿が」を逆にするとか。「名簿が市ホームページのPDFでも」にすると、市民リーダーの話だと分かりますね。

(B委員) すみません。「学校の要望を汲む」という表現ですが、「要望を汲む」というのはあまり見たことがないのですが、「汲み取る」とか「意見を集める」とか「意見を聞く」とかは見かけるような。表現の問題ですけど、分かりづらいかと思います。

(C委員) 私もその前の「心得などが必要となるので、学校の要望を汲む」というところがつながらないような感じがしていました。

(会 長) そうですよ。「具体的にどの様な人が必要なのか、学校の要望を汲む」ならつながるのですが、間に心得の話が急に入ってきてしまうとここだけ具体的にになってしまいますね。そうすると、「学校支援ボランティアについては、年2回募集するなど登録者の増員を図る工夫や、児童との接し方など学校に入る場合の心得を学ぶ機会、(てん) 具体的にどの様な人が必要なのか学校の要望を汲み取る工夫が必要です。」

(C委員) あと「児童・生徒」にしないと、小中学校の両方にならないことになってしまいます。

(会 長) なるほどね。では「児童・生徒との接し方など」に。だいぶ整いましたね、ありがとうございます。次、「Ⅲ-1-②地域を担う将来世代を育むしくみづくり」これはBのままです。(総評読み上げ) 壮大ですね。いっぱい入っていますがいかがでしょうか。

(C委員) 「理解促進を進める」というのはあの…。

(会 長) 「腹痛が痛い」みたいな感じのことですよ。「理解を促進する…」 「理解を進める…」 では、「児童・生徒の生涯学習への理解を進めるなど」ですね。

(D委員) 1行目のところに「地域を核とした学校を支える体制」とあるのですが、「学校を核とした地域づくり」というのは聞くのですが、「地域を核として学校を支える」というのは違和感がある。おそらく地域学校コーディネーターとか、運営協議

会の地域の皆さんで支えているということで、「地域が学校を支える体制」というシンプルな表現で良いのではないか。

(会長) 確かにそうですね。でも地域学校協働というのは地域が学校を支えることじゃないというのが肝なので、どうでしょうか。改めてみると…そうですね、では「地域と学校が協働して、子どもたちの学びや生活を応援すると同時に」が無難ですかね。「核」とか入れずにです。ありがとうございます。他よろしいですか。(なし)「Ⅲ-1-③「立川市民科」の推進」で評価はBで継続です。(総評読み上げ)「職員の方」の「方」はいらないですね、「職員の」にして。いかがでしょうか。

(E委員)「立川市民科」ですが、以前は学校教育という意味の「立川市民科」だったのですけれども、二面性があるのですよね、生涯学習としての「立川市民科」という。頭に冠などつけられるのですか。私は「立川市民科」というと学校教育でなされている小1から中3までの立川市の独自のカリキュラムという、そういうイメージがあるものですから、だけどももう一方では生涯学習としての各学習館等で行われている講座に二重丸をつけていて、それが「立川市民科に関するものです」となっていますけど、それで、「明記すると良いと思います」と書いてありますが、どちらのことを言っているのか、一般の人は余計わからないのではないかと思います。

(事務局・センター長) 以前、その話があって例えば「大人の立川市民科」とか「生涯学習版立川市民科」というふうにしようという議論もあったのですが、組織としてそれは辞めようという判断になりまして、「きらり・たちかわ」などには立川市民科生涯学習版はこうという説明があります。そこは繰り返し伝えていこうかなというところでございます。

(E委員) 結局、包含しているのですね。「立川市民科」という文言だけれども、学校教育と生涯学習が一緒になった文言だと捉えてくださいというわけですね。

(事務局・センター長) 結論はそうです。学社一体となっておりますので。

(副会長) あと違和感があるのは「市長や市議会議員との懇談会」のことが、なぜここに来てくるのか。不思議な感じがするのですけれども。地域課題を市側へ訴えようという意味なのか。ちょっと「立川市民科」とは違うような。いかがですか。

(会長) 多分、学んだ成果を市に生かす、活動して生かす人もいれば市の政策に生かすために政策形成する人たちとの対話をするということで生かすという、そういう文脈なのかと思います。それは市長と市議会議員だけではなくて、もちろん、行政職員さんとか、施設の職員さんとかいろいろあると思います。書くと長くなる話ですね。どうしますか。

(F委員) 政策形成にどういうふうにかんでいくのかというところだと思うのですが…。単に課題だっというだけでそこで止まって良いものなのかどうか。

(会長)「担い手となるまでが」と言っている以上、提言するだけじゃなくて自らも解決する主体になっていくという、そういうことなのだろうと思うのですけど。

(副会長) 特に異議がなければこれで別に良いのですが、なんとなく抵抗がありますね。

(会長) 特定していることもあって「市長」とか…。どうしますか、取りますか。別の案を考えるのはちょっと難しいので、長くなっちゃいますから。「具体的には地域

に関する課題を発見して解決するための提言やボランティア活動を紹介するなどが考えられます」とか、どうでしょうか。

(C委員)「市長」とか「市議会議員」とするのは、やはりちょっと市民科とは違うと感じます。今、会長がおっしゃったように「地域に関する課題を発見して解決するための提言やボランティア活動を紹介するなど」が良いかと思うのですが。

(会長)あとは、「市政に関する会議を紹介する」とかならまだ、分かるような気がしますよね。こういう会議とか、市政に関する会議を勧めて参加して意見を言ってみても担い手になってくださいというのなら、分かるような気がするのですが。

(G委員)今のが良いかと思います。「市長」とか「市議会議員」とか特定の人を入れると、一例というのは分かるのですがここだけ突出した感じがしましたので。「市政に関する会議を紹介」など柔らかい表現の方がいいかと思います。

(会長)会議の傍聴とか、公募の委員でやりとりするとかありますよね。では「市政に関する会議を紹介する」とか「市政に関する会議の参加を促す」とかそのような感じでよろしいでしょうか。

(B委員)自治連としての意見として「地域で開催されているイベント」とさせて、具体的なねらいを事細かに書かないほうが良いのではないかと。現実問題として、地域活動とか、ボランティア活動の発信がまったくできていないというか、取り上げる仕組みもないというか、もちろん地域団体の努力が足りないと言われればそれまでなのですが、そういう意味合いでいえば、特定の方向性に絞らずに地域のイベントという風に一括りで良いのではないかと。

(会長)では、「具体的には、地域に関する課題を発見して解決するための提言やボランティア活動、地域で開催されている地域に関するイベントなどを紹介するなど」ですね。

(B委員)はい、ざっくりと。

(会長)はい、ありがとうございます。Ⅲ-1-③よろしいでしょうか。

(D委員)もう一点、細かくてすみません。下から2行目、「コーディネート能力」は7ページでは「コーディネート力」になっています。

(会長)では、「コーディネート力」にしましょうか。

(C委員)「最後の学校教育・生涯学習どちらか分からない部分があるので、明記すると良いと思います。」はこのまま残るのですか。

(会長)さっきの話ですね。明記しない方向性という回答がでてしまっているのですが、外しますか。では後半は「職員の方のコーディネート能力」は「職員のコーディネート力」、最後「一般的には・・・」からの部分はカットです。はい、ありがとうございます。Ⅲ-1-③はそのようにして。「Ⅲ-2-①コーディネーターとしての職員の養成、研修体制の強化」、これはCのままです。(総評読み上げ)ご意見いかがでしょうか。立川の学習館職員さんは会計年度任用職員という他に呼び方ありましたよね。地域で採用される方に対して。

(事務局・センター長)昔は、会計年度任用職員になる前には市民嘱託と言っていました。

(会長)いえいえ、そういう呼び方でしたか？立川市独自の呼び方があったような。私

の思い違いでしたか。今は、会計年度任用職員さんなのですね。例えば、西東京市の公民館職員さんは、専門職員と呼んでいて、身分は会計年度任用職員なのですが採用されるときに資格とか、面接試験とかをするわけなので、しっかり事業を担当する人ということでそのような呼び方なのですね。では、主語は「会計年度任用職員が」これしかないのですね。

(副会長) これは僕がぜひ、生かしてしてくださいと言ったのですが、学習館では正規職員が管理側になっていて、実態としては会計年度任用職員が企画だとかをされているのですね。その人たちが来年いないかもしれないと自分で言うような状況では継続して事業するとか、先を見通すとかとてもできないとっていて、生涯審としてはいわゆる「持続可能な事業」という風に考えるとしたら、僕らは後押しする立場にいるのではないかとっていて、ぜひここを生かしてくださいと要望しました。

(F委員) 会計年度任用職員はだいたい4回ぐらいまで更新して継続できるのですよね。

(事務局・センター長) 制度的に一年更新です。4回更新できるのですが。再任は評価の中で可能かと思えます。その制度に限定して言うとなかなか書けないのですが、お気持ちの中でこちらを入れたいということですね。

(副会長) そうですね。ほかで専門職員という風呼んでいるのであれば、学習館の職員の呼び方を変えたほうが良いと思えますね。実際に企画を担っていて。しかも、そちらに確か社会教育主事はひとりもいないですよ。

(事務局・センター長) 学習館にはいないですが、アィムにはいます。

(副会長) そうなのですね。これは大事な立場ですので。ほんとに4年で変わっても良いものなのか。

(F委員) もう一度、公募で入れれば継続可能ですよ、制度的には。

(C委員) 今、F委員がおっしゃったように、4年たってもまだ、継続というのは可能なのですよ。

(F委員) 新宿区と同じシステムであれば、立川市の評価さえよければ、4回までは再任ができて5年間はそこにいられると。5年になったときは、もう一度公募ということで、また、新しい方が入ってこれる形で、面接からやり直すのですが、内部評価が良くて継続できるということであれば、公募でも面接とか作文なしで続けることができるのですが。でもおっしゃるとおり、それでも4年間しか継続しないこともあります。ただ、こういう風を書くことによって立川市のその方に対する評価がきちんとされるようになればいいかと思えます。3段階ぐらいの評価だと思うので。うちはA~Eまであって、普通にされていればCで、Eがついたら申し訳ないが辞めていただくという話なのですけど。

(会長) まあ、そうですね。確かに学習館は会計年度任用職員さんに支えられていることは事実なので、そのまま残すか、強制度合いを下げる意味で、「求めます」を「必要です」にするとか「十分検討してください」とか語尾を濁すしか思いつかないけど。

(F委員) そういう内部評価なので、市にきちんと評価していただくためにはこの文言があったほうが良いのかなと思います。

(会長) どうでしょう。載せてよろしいですか。(意見なし) はい。それでは生涯審ではぜひこれは載せていただきたいということで、よろしく願いいたします。では次、「Ⅲ-3-①学習施設の充実と利便性の確保」、これはCからBにアップしています。(総評読み上げ) よろしいですか。(なし) はい、これはこのままで。次、「Ⅲ-3-②公平で柔軟な施設利用の推進や学習施設の連携促進」これはCのままです。(総評読み上げ) はい、良いですかね。はい、最後です。「Ⅲ-3-③施設の維持管理」、Bですね。(総評読み上げ) いかがでしょうか。「公共施設再編において社会教育関連施設を聖域にせず」はとって持っていかれちゃいそうなので、もうちょっとソフトな表現で良いかなという気がします。

(B委員) 文言自体の話ではないのですが、人口減少の話が出ているじゃないですか。よく、行政の方の資料ですと人口減少するから公共施設の面積を縮小させるという話が先に出てくるのですが、利用者の中心である高齢者がどんどん増えて、逆に利用者は増えているのではないかと。いつもこの視点に対する行政のまともな答えは聞いたことがないのですが。あまりこのコメントの中で人口減少のことを取り上げるのはどうなのかと思います。Ⅲ-3-②では高齢者が中心でという書き方なのに、こちらでは出てこない。これが少し気にはなりました。

(会長) それでは、「将来的には人口減少・高齢化が予想されるため」にしましょうか。聖域のところも怖いので、「公共施設再編において持続可能な生涯学習の場の確保を図ってください。」にしましょうかね。不安要素がなくなりました。これで、今日が言ったところを直していただくことによって、令和5年度実施の令和4年度取組状況の進捗評価表をご承認いただくことでよろしいでしょうか。(はい) ありがとうございます。

(3) 立川市第7次生涯学習推進計画策定に向けた自由討論

(会長) 事務局より説明をお願いいたします。

(事務局・管理係員) 前回の続きとなりますので多くの説明はないのですが、資料としては前回出たテーマをまとめたものと、また計画で出てきそうなワードが盛りだくさんのものを1枚つけさせていただきました。ただ、こちらにとらわれず今日考えたものがあれば、そちらを優先して議論していただければと思います。

(会長) ありがとうございます。前回の会議で出た話題を少し整理していただいたものと、国で審議されている「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理【概要】」を資料としてつけられています。次回の会議でより具体的に、第7次生涯学習推進計画策定に向けた意見交換を行いますので、今日のところは話題出しということで、深めるとかではなく論点を出す形にしたいと思います。前回触れていないこととか、付け足したいところがあればお願いします。

(A委員) 私は次期計画で「市民性学習の推進」を打ち出していきたいと思います。一般的には「市民教育」とかの表現が良いのかもしれませんが、「Citizenship Education(シティズンシップ教育)」のことでございます。よりよい市民社会を創ることが、社会教育の使命でありますので、他者の考え方を理解し合う、自らが考え判断して行動する力を養うとか、社会の構成員として市民が伝え、市民が備

える市民性を育成するために行われる教育というところを、立川でも前面に出しても良いのではないかと思いましたがご提案します。

(会長) ありがとうございます。市民性教育、Citizenship Education、について真正面から取り組んでいけたら良いなというご提案ですね。立川市民科の中身というか展開にも関わる部分もあるかと思えます。

(B委員) 前回参加できなくて申し訳なかったのですが、フリートーク部分、6次の計画を振り返ってみて思うのですが、考察が抜けていると感じたのはボランティアについての部分で、ボランティアに参加することによる自己満足感、肯定感が得られるという話はあるのですが、ヒト・物・金・時間という、リソース的なものはやはり負担になっている部分があるのかなと。自治会も含めてそうなのですが関わるボランティアさん全体の課題ではないかと。計画の中でそういう部分がサポートできるのであれば、項目が作れるのであればお考えいただきたいと思えます。

(会長) ありがとうございます。ボランティアについての運営とか、継続に関わるところでですね。その他はいかがでしょうか。

(C委員) 先日の社会教育の研究大会にオンラインで参加させていただきまして、その中でウェルビーイングの考え方を学ばせていただきました。社会教育はイコール生涯学習なのだと思うのですが、これまでの個人のハピネスから社会のウェルビーイングへの概念、今日つけていただいた資料「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理【概要】」の「～全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて～」この部分がとても身に迫りました。自分が頑張ってきた自分ひとりの『個』の幸せから今度は社会全体で『ウェルビーイング』を目指す。これが生涯学習、社会教育なのだ学びました。次期計画ではこの点を強調していただけたらと思えます。

(会長) ありがとうございます。A委員の市民性の話とか、ボランティアの話につながる話かなと思えます。ひとりひとりの部分と地域とか社会とかについてですね。早速、交流大会の成果をありがとうございます。他はいかがでしょうか。よければ私からも3つほどありまして、1つは前回のH委員の市民リーダーの話が印象的だったことと、最近、他の地域の職員さんとか接する機会があったりして思うのですが、ウェルビーイングとか、皆さんの話と関わることで、個人への学習機会の提供は、立川は非常に充実していると思うのですが、学びから活動への循環を促したときに学んだことを個人で活用するというのはなかなか大変でハードルがあったりすることがひとつ、それから学習グループや団体さんが自主的な活動、ボランティアな活動も含めてやっているときに、リーダーとなるメンバーが次に会の運営という自主的な活動の会の運営というのはやはり、かなり皆さんの意欲と関心とか、ボランティア精神に基づいて運営していかなくてはいけないので、いわゆる組織の運営とは違うので、そういうグループでの学び方とか運営の仕方を学ぶ機会がもう少しあったほうが、ひとりひとりの学びも促進されるし、仲間と一緒に活動することを持続可能にしていけるし、今ある団体さんが新しいメンバーを得たり、リーダーを引き継いでいくときにも必要になっていく話だろうし、これは多分生涯学習だけではなく、地域活動とかボランティア活動と

か、他の領域にも関わることだと思っておりますが、生涯学習の分野の学びとして、自主的なグループ学習だったり、運営だったり、やっていく機会、学びの機会があったほうが今ある素晴らしい活動を継続したり、引き継いでいくためには重要ではないのかなと。そういう場があったほうが良いと思うのがひとつ。今のところと関わって立川市民科のさっきの評価もそうなんですけど、学びを通して地域の担い手を育成していくというところでは、一つの大きなテーマだとは思っておりますが、前回も継続的な講座の企画が必要なのではないかと出ていたと思うのですが、ちょうど私も今月、いろいろな自治体の市民大学系の講師に行っていたこともあって、やはりどこも学びを通して地域の担い手となっていただくような、半年とか一年とか、場合によっては2年とか3年とか通した市民カレッジのような実践と仲間づくりを兼ね備えた事業が展開されていると思うのですが、立川はこれだけ資源が多くあって、力を持っている職員や市民の方もいらっしゃるの、ひとりひとりがメニューを組み合わせてというよりは全体を通じて、半年、一年を通して学び、活動を見いだしてチームを作っていくような系統的なものというプログラムがあっても良いのではないかなと思う。卒業した後もゆるやかにつながって行って、地域で活動するときバックアップするとか、未来に活動する人の育成、サポートをするとか、そういった層を創っていく取組があっても良いのではないかなと思うのが、もうひとつ。三つめが職員とコーディネーターの育成だと思います。私自身、関心を持っていることでもありますし、協働での研修もやらせていただくこともありますので。実際に先ほどの会計年度任用職員さんも非常に長い方もたくさんいらっしゃるし、短い方でも意欲をもって熱心に取り組んでいて、特徴的な各学習館の事業を支えてくださっているのかなと思います。それを係長さん、異動でいらっしゃる正規の職員さんたちが管理運営ということでバックアップされているのもよく存じ上げておまして、でもやっぱり今回の評価でもCとかBとかついてしまうように、コーディネート能力、育成というのは相変わらず課題ではあるので、ここで少し体系的な職員の配置について行動を起こしてもよいのかなと思うとともに、これって生涯学習推進センターだけの問題なのかなと思ったりもしてまして、今、会議参加させていただいている、社会教育士とか社会教育人材の活用の話は学びを支援するような専門的な力量が教育委員会とか生涯学習以外の部署のところに行っても、行政職員さんのことですね、結局市民と協働したり、学習を企画したりは、いろんな部署で展開されるし、生涯学習の事業を展開するときにも他部署の方と協働したほうが上手くいく事業もいっぱいあるのですよね。例えば防災なら学習館でやるというなら学習館の職員も関わりますが、防災課の職員とか、観光のことだったら観光の部署という風にいるような人と連携してやることになるときに、連携先の職員さんもコーディネーター的観点をもっている方がいらっしゃったら、それは良い中身ができるわけで、それを考えたら市民、職員の研修においても生涯学習推進センターが核になりつつも、庁内だったりあるいはリーダー市民の方だったり、総合的に学ぶ機会を提供したり、ネットワークをつくりという観点はあるのではないかなと。そこを先導していくのがセンターだという考え方もできるかなと。コーディネーターの専

門性を学習館なり、生涯学習の部署だけに閉じなくても良いのかなと思うところもありまして、実際に今もされている部分もあるとは思いますが内部研修、外部研修を含めてその点も含めてもらえればと思いました。その3点をフリートークの話題出しとしてお話ししました。他にはいかがでしょうか。

(B委員) 会長がおっしゃられたコーディネーターの育成、向上の話ですが、職員の方も職務を離れたところでは趣味の世界もお持ちなわけで、その職員の方が積極的に社会教育関係団体などに参加して進めていけば必然的にコーディネート力とか、社会教育関係団体の実情というものに触れる機会が増えるので、そういった形で一緒にやれるような仕組みができれば良いかなと思います。実際に高松学習館の石井さんは現職時代、囲碁のサークルを立ち上げて、今もリーダーをされていると思います。対外的な試合もやっていて、盛り上がっているなので、あのよう、実際に社会教育団体を立ち上げて、継続されていることは相当すごいことですけど、そういう機会をお互いに増やすのもひとつのアイデアだと思います。

(E委員) 話がずれてしまうかもしれませんが、コーディネート力というのは、確かに研修を受けるとかそういう部分も大切かとは思いますが、資料でも公民館の役割を明確化とありますけど、職員の人と活動しているときなど、同じ土俵に立って話をしないと方向性が定まらないと感じます。学習館の置かれている目的や使命とかそういう部分を十分認識しないと、地域学習館がどのような方向に進むのかわからなくなってしまうのかなと思います。地域の人材を子どもの学びに提供したいというのが、私たち、西砂学習館のコンセプトなので、学習館の求めるものだし、そう進んでいかななくてはならないだろうと考えています。今回、小さな事例ですが「ウインターイベント」を西砂学習館が改修中で使えないので、学校供用施設の西砂会館と天王橋会館で行うことになったのですが、日程等の関係で西砂学習館の書道教室の人材だけではまかないきれない。そこで、西砂会館でやっている書道教室の人たちに、西砂学習館が取り組もうとしている「ウインターイベント」はどのようなものなのか主旨を説明することによって、ボランティアを引き受けてくれることになった。今まで学習館だけだったものが、地域の学校等供用施設2か所に広がったわけです。そうすると次の年にはもっと内容の違った複雑なものなどに活動を広げる、つながっていくことができる。その視点を学習館の職員の人たちが持つということが地域で学校を核とした学びを支えていくことができるのではないかと。そういう意味で学習館の役割を再確認することが、同じ土俵に立って地域の課題を解決しながら進む方向性を定めていけるのかなと感じました。

(会長) ありがとうございます。そう考えると、配属された地域を知ること自体が研修というか、研修の方法論、あり方自体も実質的なものにしていかなくてはならないということですね。

(C委員) それぞれが力を発揮しあって、それぞれができることを地域のため、未来の子どもたちのためにやるという観点が必要な時代になっていることを職員のみなさんにもしっかりと自覚していただきたいです。リーダーシップや地域を引っ張っていける力を求めたいと思います。時代が変わってきているということを実感し

ています。

(会 長) 地域ごとに、地域の人たちが中心となって活動していけるように支援しなくてはいけないから、難しいですね。動いてもらうようにサポートしなくてはいけないので。地域によっても実情が違いますね。ありがとうございます。次の計画に向けて具体的なことはこれからディスカッションに入りますが、今日はこれ以上時間が取れませんので、何か他のご意見がありましたら年内までに事務局にお寄せください。協議事項で予定されていたものは以上となります。

4. その他

(1) 令和5年(2023年)第3回立川市議会定例会報告

(会長) センター長よりご説明をお願いします

(事務局・センター長) 時間の関係もありますので、簡単にご説明させていただきます。

酒井市長就任の最初の議会ということで、9月議会が9月25日から、途中休会も含めまして10月31日までございました。最初に市長所信表明に対する質疑がございまして、4会派から質問が出されました。主に教育部門で言うと、小学校給食無償化についての質問が多くございました。2ページ目は一般質問の質問でございますが、生涯学習に関しては平和学習に関する質問、立川名画座通り映画祭の質問がございました。3ページは決算総括質問として、砂川学習館の建て替えに関する質問がございました。以下、決算特別委員会、文教委員会、議案審議については資料をご覧ください。15ページですが、今までも広島市の平和学習ということで、文教委員会で私のほうから立川市中学校平和学習派遣事業について報告させていただきました。雑駁でございますが以上でございます。

(会 長) ありがとうございます。資料をつけていただきましたのでお読みいただければと思います。何かご質問ございますでしょうか。(なし)

(2) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会関連の各大会の情報共有について

(会 長) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会関連でブロック研修会、全国社会教育研究大会、関東甲信越社会教育研究大会栃木大会がありました。参加いただいた委員にご報告いただこうと思います。では10月21日に昭島市でありましたブロック研修会に参加いただいたF委員、I委員、D委員より簡単にご報告いただければ。ご感想などお願いします。

(F委員) ワークショップを受けてきました。自分たちが何を一番大切にしているのかということで講師が合同会社ファミリーコンパスの渋谷さんという方でした。研修のテーマは「自分の願いを知り、互いの願いを分かち合う」ということで、たくさんのお願いごとを出したり、願いが書かれた表をいただいたり、大切にしたい願いがどういうものがあるのか、例示をいただいたりしながら自分の中で大切にしたいのは何なのかということと、相手はそれをどう受け止めるのかとか、共有するにはどうしたらよいかという形で話ができたと感じます。ワークショップはあっという間で、なるほどなという感じだったのですが、関係者の気になった話としてはご高齢の方が多く、ワークショップという新しいやり方を通すのが大変

だったという話をされていましたが、心和むというか、こういうふうにやると他の人と理解がし合えるんだなというのがよくわかりました。あと、終わってから3人でアキシマエンスを見学させていただいて、案内役がいらっしやいましたのでとても楽しい時間を過ごさせていただきました。私は考古学の恩師がいて展示会もやっていたので縄文土器の展示を見て興奮してしまいました。昭島市がうらやましく感じました。

(会 長) 図書館の中に資料館もあり、素晴らしいですね。I委員とD委員からもひと言ずつお願いします。

(I委員) 最初のところで議論というのと対話という話があって、そのあとはここから出たら忘れてくださいとのことでしたので、忘れました(笑)。

(会 長) その場での議論を大事にするから、それを引っ張らないということですね。

(D委員) 対話がキーワードになっていて、非暴力コミュニケーションを体験するということで行ってきました。自分たちがそれぞれモヤモヤしていることは、いったいどこに原因があるのか、何を大切に思っていることからそのモヤモヤなのかを探して、それをいろんな方の話を聞きながら自分に落とし込んでいくというなかなか面白いものでした。あとは施設めぐりをさせていただきました。

(会 長) ブロック研修会だけじゃない、いろいろオプションもあったようで充実した中身で良かったです。ありがとうございます。担当が昭島市だったんですね、何人くらい参加していたのですか？

(事務局・管理係員) 椅子だけが円形状に並んでいる会場でしたので、何人の把握はわかりづらかったのですが、それなりの人数はいたかと思います。

(会 長) ありがとうございます。11月に全国社会教育研究大会が宮崎であったとことで、こちらにD委員が参加されましたのでご報告を簡単によろしくお願いいたします。

(D委員) 皆様にお配りさせていただいた資料は、宮崎大会第5分科会の資料です。宮崎大会の参加は昨年から決まっておりました、昭島で実施している「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」についての報告でした。あきしま会議にはいろいろな方、職員も含め、地域の方、高校生、小学生も参加されたことがあるのですが、その方たちと一緒に何が市の中で行われているかを聞き合うということをやってきました。最初は皆さんの報告を聞き、そうなんだという感じで顔見知りになっていって、そのうちこれが直接的なきっかけというわけではないのですが、高校生がボランティア団体を立ち上げるようになり、顔がつながるような関係づくりを社会教育委員がやってきたことを、社会教育委員の役割として今回報告されました。今度はそれをステップアップして、あきしま会議が市民のいろいろな声を行政に届けられるようなしくみになればとまとめておられました。先ほどお話にでていましたシティズンシップにつながる話だなど思いました。このときに一緒に配られたのが「あきしまの社会教育委員ガイド」というもので、昭島市も2年ごとに社会教育委員さんは任期満了を迎えるわけですが、社会教育委員とはいったい何をする人なのかわからないと言われることも多かったので、社会教育委員の皆さんと作成しました。社会教育委員は自ら行動することを大事にいただき、このあきしま会議の企画・運営を通して徐々にファシリテート

力も身につけていただくという仕組みになっています。宮崎大会では、このガイドにも多くの関心が寄せられていました。

(会長) ありがとうございます。ではそのあと関東甲信越社会教育研究大会栃木大会にC委員が参加なさったので、そちらもご報告お願いいたします。

(C委員) ほんとに雑駁な資料ですが皆様にお配りさせていただきました。初めて参加させていただき、改めて社会教育委員の役割を考えさせていただきました。実りが多かった会議で感謝しております。最初に作新学院の監督の小針さんのお話は、ほんとに若い監督さんで、甲子園で優勝した経験もお持ちです。この方ご自身が20代、30代の野球は自分のためにやってきたけれどでも、40代からは地域貢献、地域の幸せのためにという思いで野球をやった。若いうちから地域のためにという思いを持つ人を育てるとするのは大事だなと感じました。その次はシンポジウムで、パネリストの方たちからそれぞれの活動をうかがうなかで、社会教育というのはいろいろな方がいろいろな思いで自分の持てる力を地域のために、そういうものなんだと感じました。最初の生井さんという方は親教育というものをやっていて、2番目の菊地孝行さんは学校コーディネーターのような活動をやっている方で3番目の濱野さんという方は社協のようなありとあらゆることを、それぞれが支え合えるような、交じりあっていくという活動をされているお話をされていて、井上さんというパネリストからは個人のウェルビーイングから社会のウェルビーイングへは、社会教育がそのエンジンとなっていくんだという話があり、学ばせていただきました。ありがとうございました。

(会長) ありがとうございます。井上さんと私は国の社会教育人材分科会で一緒にさせていただいて、栃木県は学校の教員に社会教育主事や市の称号取得者を配置して市民学校教育を進める取組を、その事例などをお話していただいて参考になるなという見方をしていましたけど、今回はウェルビーイングのお話ということでご紹介いただきました。記録までつけていただいてありがとうございました。来週末に都市社連協の交流大会がありまして、それは私が参加する予定でございます。これで一連のご報告は以上とさせていただきます。その他で何かありますでしょうか。

(事務局・管理係員) 計画のための市民アンケートなんですけれども、分析はまだなんですけど、集計は終わりました。2,000通配布して回収が581、うち紙媒体で帰ってきたのが412、インターネットによる回答が169です。回収率は29.1%ということで、前回よりは下がってしまったのですが、おおむね30%近くということで、それなりに集まったかなという感じです。また分析したら報告させていただきます。

(会長) ありがとうございます。他にありませんでしょうか。

(H委員) 中学生の主張大会に行かせていただいたのですが、とても興味深いものでした。個人審査員はすごく大変そうでしたが、初めて参加させていただいて、とても楽しみながら聞くことができました。

(会長) ありがとうございます。あとI委員からチラシですね。幸学習館のかわせみカフェと、防災講座のご案内をいただいております。その他はなにかございますでしょうか。議事録は特に修正ないですね。ありがとうございます。

本日の会議はこれで閉会したいと思います。次回は1月19日、AIMで行います。先ほど時間が足りなくて意見が出せなかったものがありましたら、事務局にお寄せください。これで今日は終わります。ありがとうございました。